

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	1
1) 学生の確保の見通し	1
2) 学生確保に向けた具体的な取組状況	7
2. 人材需要の動向等社会の要請	8
1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	8
2) 上記1) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	8

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

1) 学生の確保の見通し

(1) 定員充足の見込み

本博士後期課程の入学定員は2名、収容定員を6名とした。この定員設定は、高度な教育研究を行うために質を担保する必要があると考え、特に研究指導教員数（5名予定）と学生数のバランスを考慮したものである。

平成13年に開設した大学院国際文化研究科国際文化システム専攻（修士課程）（以下、「本学修士課程」という。）では、さまざまな文化を理解する視野を持ち、国内外における地域課題の解決に必要な総合的な視野を持った職業人及び研究能力を有する人材の養成に努めている。本学修士課程入学定員は6名であり、開設から現在に至るまで、安定的に定員を充足している。

本博士後期課程の基礎となる本学修士課程の学生並びに修了生は、本博士後期課程進学者にふさわしい候補者となり得ると想定している。実際、これまでも多くの学生が修士課程修了後も本学で継続して研究ができることを希望していた。

また、沖縄県内の他の大学院の内、本博士後期課程と類似する修士課程のみを持つ大学院は3大学院あり、本学博士後期課程は当該大学院修士課程修了後の進路になり得ると想定している。

本博士後期課程の定員は、修士課程の入学定員数及び進学ニーズを考慮し、適切な定員設定であると考えている。次項に示す本学修士課程の在学生及び修了生を対象に実施したアンケート調査結果からも、継続的に学生定員を確保できる見通しのあることが確認できる。

(2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

① 「名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）に関するアンケート調査」の結果より

（資料 1…「名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）に関するアンケート調査」（調査紙、同集計結果）

本博士後期課程の設置にあたり、学生の確保の見通しを立てるために、本学修士課程の在学生及び修了生を対象に進学意向調査を行った。

なお、本博士後期課程は、「設置の趣旨等を記載した書類」で示したとおり、本学修士課程を構成する5つの教育研究領域（言語文化、社会制度政策、経営情報、観光環境、健康科学）のうち、「言語文化教育研究領域」を基礎に発展させた国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）として設置する計画である。この進学意向調査の対象として、本学修士課程の領域にかかわらず、すべての学生及び修了生とした理由は、本学修士課程では、「国際文化システム専攻」として、さまざまな文化に関する興味・関心を持ち、国内外における地域課題の解決に必要な総合的な視野を持った職業人及び研究能力を有する人材を養成しているからである。

したがって、本学修士課程の修了後の進路としては、「言語文化教育研究領域」以外の4つの教育研究領域からの出願もあり得ると考えている。

i 本学修士課程在学生の調査結果（再調査）

本博士後期課程の設置に当たり、学生の確保の見通しを立てるために、本学修士課程の在学生を対象に進学意向調査を行った。

修士課程2年次学生に対しては、1年次だった平成30年1月に同調査を実施したが、学生の確保の見通しを立てるには、不十分な結果であった。したがって、初回実施から約5カ月が経った平成30年6月、学生に対し本博士後期課程の教育課程や研究指導内容等を明確に提示することで、修了後の進路に変更があり得ることを考慮し、修士課程2年次学生に対して再調査を行った。

なお、修士課程1年次学生に対しては、初めての実施であった。

調査の結果、本学修士課程在学生において、回答した16名の内、修士課程修了後「進学」を考えている者は5名であった。「その他」と回答した3名は、「進学と就職同時に行うことを希望」等と、いずれも進学の意向を含んでいるため、進学希望者に該当させた。合計8名を進学希望者としている。

問1. 修士課程修了後の進路をどのように考えていますか。（どれか一つを選択）

1 進学	5	31%
2 就職	8	50%
3 その他	3	19%
合計	16	100%

その他の記述

- ・進学と就職同時に行うことを希望
- ・就職後、一定期間経過後、進学する
- ・復職後、一定期間経過後、検討したい

その8名中、8名が本博士後期課程への進学を「検討したい」と答えた。

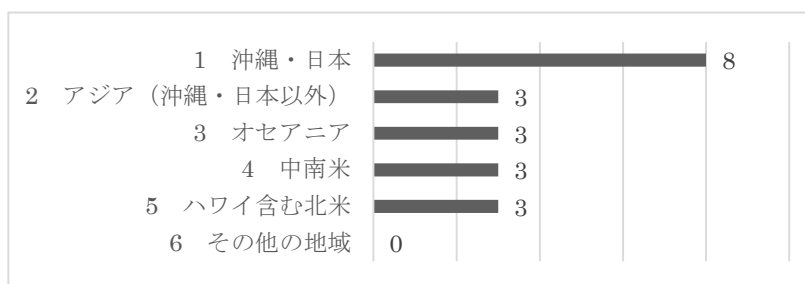
問2. 名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）（以下、本学博士後期課程とする。）が開設した場合、あなたは、進学を希望しますか。（どれか1つを選択）

1 希望する	0	0%
2 検討したい	8	100%
3 希望しない	0	0%
合計	8	100%

本博士後期課程への進学を「検討したい」と答えた8名の「関心のある地域」（複数回答可）については、多い順に「沖縄・日本」8名、次いで、「アジア（沖縄・日本以外）」「オセアニア」「中南米」「ハワイ含む北米」が3名と回答があり、これは本学博士後期課程の研究分野及び教育課程へのニーズが十分にあることを示すものであり、教員配置とも合致すると考える。

問3. あなたは、次のうち、どの地域に関心がありますか。（複数回答可）

1 沖縄・日本	8
2 アジア(沖縄・日本以外)	3
3 オセアニア	3
4 中南米	3
5 ハワイ含む北米	3
6 その他の地域	0

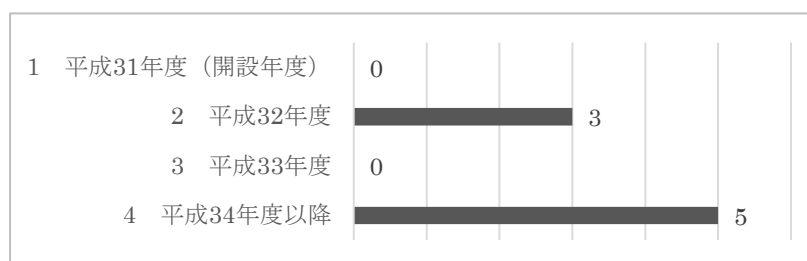


本博士後期課程への進学を「検討したい」と答えた 8 名の「進学時期」は、「平成 32 年度」が 3 名、「平成 34 年度以降」が 5 名であった。

なお、「平成 31 年度(開設年度)」及び「平成 33 年度」の回答者がいないことについては、広報活動や開設後の実績により出願者は増加すると考えている。

問 4. 本学博士後期課程への進学時期は、いつ頃を考えていますか。（どれか 1 つを選択）

1 平成31年度(開設年度)	0	0%
2 平成32年度	3	38%
3 平成33年度	0	0%
4 平成34年度以降	5	63%
合計	8	100%



ii 本学修士課程修了生の調査結果

本学修士課程修了生においては、回答した 20 名の内、11 名が博士後期課程への進学意向が「ある」と回答した。

問 1. あなたは、博士後期課程へ進学する意向はありますか。（どれか一つを選択）

1 ある	11	55%
2 ない	5	25%
3 わからない	4	20%
合計	20	100%

その 11 名中、10 名が本博士後期課程への進学を「希望する」と回答した。

問 2. 名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）（以下、本学博士後期課程とする。）が開設した場合、あなたは、進学を希望しますか。（どれか 1 つを選択）

1 希望する	10	91%
2 検討したい	0	0%
3 希望しない	1	9%
合計	11	100%

本博士後期課程への進学を希望した 10 名の「進学時期」は、「平成 31 年度（開設年度）」が 4 名、「平成 32 年度」が 3 名、「平成 33 年度」が 1 名、「平成 34 年度以降」が 2 名であり継続的な志願者が見込まれる結果が得られた。

なお、「平成 33 年度」1 名という結果については、開設後の実績や広報活動により出願者は増加すると考えている。

問 4. 本学博士後期課程への進学時期は、いつ頃を考えていますか。（どれか 1 つを選択）

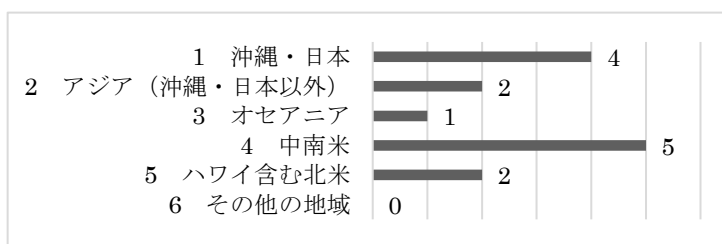
1 平成31年度（開設年度）	4	40%
2 平成32年度	3	30%
3 平成33年度	1	10%
4 平成34年度以降	2	20%
合計	10	100%



また、本博士後期課程への進学を希望した 10 名の「関心のある地域」（複数回答可）については、多い順に「中南米」5 名、「沖縄・日本」4 名、「アジア（沖縄・日本以外）」2 名、「ハワイ含む北米」2 名と回答があり、これは本学博士後期課程の研究分野及び教育課程へのニーズが十分であることを示すものであり、教員配置とも合致すると言える。

問 3. あなたは、次のうち、どの地域に関心がありますか。（複数回答可）

1 沖縄・日本	4
2 アジア（沖縄・日本以外）	2
3 オセアニア	1
4 中南米	5
5 ハワイ含む北米	2
6 その他の地域	0



さらに、修士号取得歴は、「取得後 1～3 年経過」2 名、「取得後 4～6 年経過」3 名、「取得後 7～9 年以上経過」1 名、「取得後 10 年以上経過」4 名であった。問 8 の意見・要望では、本学博士後期課程に肯定的な内容、期待、高い進学意欲が示されており、これらの結果を合わせて分析すると、本博士後期課程への進学に高いニーズが見られるのは、修士課程修了後も高い研究意欲を保持する社会人であると考えられ、博士後期課程で研究能力を養うにふさわしい人材の出願が見込まれる。

在学中	0
取得後1～3年経過	2
取得後4～6年経過	3
取得後7～9年経過	1
取得後10年以上経過	4
合計	10

以上、修士課程在学学生及び修了生を対象にした調査結果から、本博士後期課程の入学定員2名については、継続的に学生を確保できる見通しがあると考えます。

②類似する分野を持つ沖縄県内の他大学大学院の設置状況より

沖縄県内で博士後期課程を設置する大学院は4大学あり(1つは大学院大学)、その内、本博士後期課程と類似する分野を擁する博士後期課程は「人文社会科学研究科比較地域文化専攻」と「芸術文化学専攻」の2大学である。当専攻の平成29年度志願倍率は、それぞれ2.3倍、1.7倍であり、定員を満たしている。県内において、当分野での高度な研究を希望する者が一定数存在することを示している。(資料2…近隣競合校の志願状況)

また、沖縄県内で大学院修士課程のみを擁する大学院は、本学を含み4大学あり、その中で、本博士後期課程と類似する分野を持つ専攻は、「南島文化専攻」「英米言語文化専攻」「沖縄・東アジア地域研究専攻」「異文化コミュニケーション学専攻」「(本学)国際文化システム専攻」がある。これらの修了生は、本学博士後期課程への進学候補者となり得ると考えている。

本博士後期課程における沖縄(琉球)・アジアと(ハワイを含む)南北アメリカに特化した環太平洋の地域文化の研究を行う領域は、他大学院にはない特色であり、こうした研究領域及び教員組織を擁する本博士後期課程に進学を希望する他大学院修士課程学生も存在することが想定される。

本学以外から本博士後期課程に就任予定の3名の教員は、2名がすでに前職を退職しており、1名は平成31年3月に退職する予定である。琉球文学、琉球文化、中琉交流史、南島民俗論を専門とする3名の教員が就任するにより、本博士後期課程は大きな特色を有する教育研究を行うことが可能であると考えます。

このように近隣の大学にある博士後期課程と本学の博士後期課程の教育研究との差別化は可能であり、競合することはないと考えます。

③学校基本調査による分野別入学者推移より (資料3…「平成29年度学校基本調査—専攻分野別大学院学生の構成—」)

本博士後期課程の分野は、学校基本調査の専攻分野においては、「人文科学分野」に区分される。

平成29年度学校基本調査「専攻分野別大学院学生の構成」によると、大学院博士課程での人文科学分野を専攻する学生の比率は、平成25年度8.5%、平成26年度8.3%、平成27年度8.1%、平成28年度7.9%、平成29年度7.7%であり、約13人に1人が当該分野の研究を行っていると言える。

なお、同調査による全博士課程学生数 73,909 人から人文科学分野を専攻する学生数を導き出すと約 5,690 人である。

「専攻分野別大学院学生の構成」全体においては、突出する工学 17.2%、医・歯学 28.6%を除くと、社会科学 8.1%、理学 6.6%と並んで高い比率であり、年々減少傾向にあるものの概ね安定した比率であると言える。

以上のことから、人文科学分野の博士課程への進学希望者は、今後も安定して一定数存在することがわかる。

④グローバル人材に関する政策・提言等

以下に示すとおり、国の政策等において、グローバル人材の養成の必要性が提言されており、本博士後期課程において養成する人材は、これらの方針に合致するものであると考えている。

i グローバル人材育成推進会議の審議まとめ「グローバル人材育成戦略」（平成 24 年 6 月）

「○ 『グローバル化』とは、今日、様々な場面で多義的に用いられるが、総じて、（主に前世紀末以降の）情報通信・交通手段等の飛躍的な技術革新を背景として、政治・経済・社会等あらゆる分野で『ヒト』『モノ』『カネ』『情報』が国境を越えて高速移動し、金融や物流の市場のみならず人口・環境・エネルギー・公衆衛生等の諸課題への対応に至るまで、全地球的規模で捉えることが不可欠となった時代状況を指すものと理解される。」

「○ 我が国がこれからのグローバル化した世界の経済・社会の中にあって育成・活用していくべき「グローバル人材」の概念を整理すると、概ね、以下のような要素が含まれるものと考えられる。

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー」

ii 教育再生実行会議「これからの大学教育等の在り方について」（第三次提言）（平成 25 年 5 月）

「社会の多様な場面でグローバル化が進む中、大学は、教育内容と教育環境の国際化を徹底的に進め世界で活躍できるグローバル・リーダーを育成すること、グローバルな視点をもって地域社会の活性化を担う人材を育成することなど、大学の特色・方針や教育研究分野、学生等の多様性を踏まえた効果的な取組を進めることが必要です。また、優れた外国人留学生を積極的に受け入れることによって、大学の国際化を促し、教育・研究力を向上させ、日本の学術・文化を世界に広めることなども求められています。そのため、国は、交流の対象となる地域・分野を重点化したり、日本の文化を世界に発信する取組を併せて強化したりするなど、戦略性をもって支援していくことが重要です。」

iii 「教育振興基本計画」（平成 25 年 6 月 14 日閣議決定）

「○ グローバル化が加速する中で、日本人としてのアイデンティティや日本の文化に対する深い理解を前提として、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付けて様々な分野で活躍できるグローバル人材の育成が重要である。」

(3) 学生納付金の設定の考え方

本博士後期課程の学生納付金は、次のとおり設定している。

	地域内※	地域外
入学金	125,000	250,000
授業料（年額）	535,800	535,800

※「地域内」とは、以下に該当する場合をいう。

- ①入学する者の最終出身高等学校が沖縄本島北部に所在している場合。
- ②入学する者の住所が沖縄本島北部 12 市町村にあり、入学する年の 3 月 31 日以前から 1 年以上在住している場合。
- ③入学する者の保護者の住所が沖縄本島北部 12 市町村にあり、入学する年の 3 月 31 日以前から 1 年以上在住している場合。

《沖縄本島北部 12 市町村とは》

沖縄県の「名護市」、「本部町」、「金武町」、「国頭村」、「東村」、「大宜味村」、「今帰仁村」、「宜野座村」、「恩納村」、「伊江村」、「伊是名村」、「伊平屋村」のことをいう。

本学の授業料は、国立大学の標準額に準じて設定しており、沖縄県内の他の国公立大学大学院の授業料と同額である。入学金は、県内国公立大学大学院の中で最も低く設定している。

なお、「地域内」に該当する者については、入学金を「地域外」の半額に設定する。また、本学修士課程修了生の入学金は、「地域内」の半額とする。

2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学修士課程の在学生及び修了生には、前述したアンケート調査時に本学で博士後期課程の設置準備を進めていることを説明、周知している。当調査における自由記述においては、本博士後期課程設置構想に対し、肯定的な意見等が多数寄せられているが、これは本学への期待の表れだと捉えている。（資料 1）

修士課程在学生に対しては、年次オリエンテーション等で改めて本博士後期課程について説明し、興味・関心を持ってもらうように指導する。

また、広く周知を図るために、本学ホームページでの情報発信、県内マスメディアの活用、進学情報誌の活用等、本学以外の学生への周知にも努めていく。

2. 人材需要の動向等社会の要請

1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本博士後期課程では、養成する人材像及び教育研究上の目的を次のとおり掲げた。

養成する人材像

本博士後期課程では、「国際地域文化」という観点から、高度の外国語運用能力を駆使し、沖縄(琉球)・アジアと(ハワイを含む)南北アメリカに特化した環太平洋地域の地域文化の研究を行い、地域社会や国際社会において活躍できる人材の育成を目指す。

グローバル化が進展する 21 世紀において、沖縄(琉球)の地域および文化の研究は国際的な枠組みでの取り組みが要請されるようになった。これまでの研究を基盤としながら、国際的な視点から沖縄・琉球文化を分析し、新しい知の体系として沖縄(琉球)研究の構築に貢献しつつ、東アジアを中心とする環太平洋の枠組みの中において斬新な視点を有して活躍できる人材を養成することが急務となっている。そのため、琉球・沖縄の歴史や文化の研究を深化し、その成果を沖縄の地域創生に役立て、国内外の学生や研究者との共同研究を通じて、先端的な理論と知識を創造することのできる研究者を養成する。

また、戦後沖縄における(ハワイを含む)北アメリカおよび南アメリカの研究は、戦後沖縄をめぐる日・米・沖縄関係の複雑化、両地域における沖縄県系人のネットワークの拡大、近年における複数回にわたる「世界ウチナーンチュ大会」の開催、「世界ウチナーンチュの日」制定など、新たな事象の進展が重なり、これまでの枠組みを超えた斬新な視点からの研究が要請されるようになった。南北アメリカの地域文化に関して高度の学識と外国語運用能力を有し、沖縄県と沖縄県系人のグローバルネットワークを深く理解しつつ、その発展に対応し貢献できる人材の養成も急務となっている。開学以来、本学に蓄積された両地域におけるネットワークと研究を基盤としてこの分野の研究者を養成する。

したがって、本博士後期課程は、普遍的研究課題に取り組み、その成果を生かし研究者として活躍する能力を有する者及び専門分野に加えて環太平洋地域に関する幅広い学識と国際感覚を有する者の養成を目指す。

教育研究上の目的

本博士後期課程は、文化の多様性を理解し、グローバルな視点から国際社会が抱える多様かつ重要な課題の解決に向けた普遍的な研究を行い、高度な水準の研究を行うために必要な能力及びその基礎となる豊かな学識を有する創造性に富む人材を養成することを目的とする。

2) 上記 1) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

沖縄県はかつての琉球王国の時代から「万国津梁」の理想を掲げ、中国や東南アジア諸国をはじめとするアジアの国々との交易を行い、これらの国々の影響を受けながら独自の文化を育み、国際性と進取の気質を備えた人材を養成してきた。

沖縄県は、第二次世界大戦における苛烈な地上戦を体験し、15 万余の沖縄県民の犠牲に加

えて多くの文化遺産を失った。しかし、戦後もたらされた民主主義の時代の潮流は、県民自らのアイデンティティを求めるといった思想的契機をつくるとともに、伝統文化の活性化を促した。

また、戦前、戦後を通じて沖縄は多くの県民を、ハワイをはじめ北アメリカ、南アメリカの国々へ移民として送り出し、今や世界の沖縄県系人は40万人を越えると言われる。

さらに、地理的には、日本本土から遠隔地にあり、東西約1,000km、南北約400kmに及ぶ広大な海域に160の島々から成り立つという特性は、見方を変えると東アジアの中心に位置しているという側面を有している。

こうした沖縄県の持つ地域特性は、沖縄県が策定した「沖縄21世紀ビジョン基本計画」（平成24年5月策定、平成29年5月改訂）において、時代の進展の中で有利に働き、我が国の発展にもつながる可能性を示唆しているとされ、同時にこれらは沖縄県の自立的な発展の指針として位置付けられている。

特に近年においては、本学が立地する沖縄県北部地域は、固有の生物が生息する広大な亜熱帯の森林や美しい海を有していて、西海岸が国立公園に指定され地域全体が世界自然遺産候補地にも選定されている。また、リゾートホテルや沖縄美ら海水族館などの主要な観光地も立地し、近年の外国人観光客の増加も著しい。

さらに、本学が立地する名護市の隣にある本部町の本部港は、平成29年1月「官民連携による国際クルーズ拠点」を形成する港湾に選定され、沖縄県は2020年運営開始、年間15万人のクルーズ旅客数、その10年後は22万人を目標に「国際旅客船拠点形成計画」を推進している。

このように沖縄県の環太平洋地域における国際的な存在感が顕著になってきている。

本学は、開学以来、アジア諸国及び（ハワイを含む）南北アメリカとの交流を推進し、教育研究の実績を蓄積してきた。特に、沖縄から海外への人の移動（移民）は本学が位置する沖縄北部を中心として展開されたことから、ハワイ、北米、中南米との共同研究を含む特色ある教育研究交流は本学の特色となっている。

本学では、これまで述べた沖縄県の歴史的背景と教育研究環境を基盤として、未踏の世界へと分け入ることで、独創的で普遍的な研究を創造し、同時に地域課題に取り組むことで、優れた研究者を養成することができると思料する。さらに、構想中の本博士後期課程においてグローバルな視点から地域及び文化の研究を行うことは、新たな普遍的な価値を創造し未来に向けた地域創生につなげることができると本学は考えている。

このように、アジアとの密接な交流、北米や中南米の研究及び沖縄ネットワークとの連携や共同研究が進展する中で、国際感覚に富む人材の育成及び多様化・複雑化する社会的、時代的要請に的確に対応できる人材に対する需要は、沖縄県の地域社会で急速に増大しつつある。このため、本学は自らの文化及び地域を深く理解し、同時に高度な外国語運用能力を駆使しつつ、国際水準の理論的・実証的研究を行い、さまざまな課題に対して有効な解決策を提案しかつ実践し得る人材育成を目的とした博士後期課程の設置が必要であると思料するに至った。

これは、前述の「沖縄21世紀ビジョン基本計画」で提言されている「国際感覚に富む人材の育成及び多様化・複雑化する社会的、時代的要請に的確に対応できる専門分野の人材育成」にも資するものである。

これまで述べてきたように、本学の博士後期課程の設置は、普遍的な研究のみならず、沖縄県の地域・文化の発展、国際協力・貢献の拠点の構築など、沖縄県の地域創生にも貢献する人材を輩出することを意図しており、社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであると考えている。

添付資料目次

- 資料 1 名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）に関するアンケート調査」（調査紙、同集計結果）
- 資料 2 近隣競合校の志願状況
- 資料 3 平成 29 年度学校基本調査 ー専攻分野別大学院学生の構成ー

【本学国際文化研究科（修士課程）在学生—平成 30 年度 1 年次及び研究生対象】

名桜大学大学院国際文化研究科 国際地域文化専攻（博士後期課程）
に関するアンケート調査

名桜大学大学院では、平成 31 年 4 月開設を目指して、国際文化研究科に「国際地域文化専攻（博士後期課程）」を設置することで平成 30 年 3 月に文部科学省に設置認可申請を行いました。

つきましては、皆様の進学意向をお伺いし、設置認可申請（補正）の資料として活用させていただきたいので、国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）の概要をご覧のうえ、アンケート調査にご協力をお願いいたします。

なお、当該専攻の設置計画は、現在、設置認可申請中につき、変更があり得ることを予めご理解ください。

平成 30 年 6 月

名桜大学大学院国際文化研究科

国際地域文化専攻（博士後期課程）設置準備委員会

【名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）概要（設置認可申請中）】

開設時期	平成 31 年 4 月
研究科・専攻名	国際文化研究科 国際地域文化専攻（博士後期課程）
修業年限	3 年 ※最長 6 年の長期履修制度あり
定員	入学定員 2 名（収容定員 6 名）
学費	入学金 125,000 円(地域内)・250,000 円(地域外) / 授業料 535,800 円（年額） ※本学大学院修士課程修了生が入学する際の入学金は「地域内」の半額とする。 【参考】沖縄県内の他の国公立大学大学院の類似する研究科（博士後期課程）の学費 琉球大学大学院人文社会科学研究科比較地域文化専攻(博士後期課程) 入学金 282,000 円/授業料 535,800 円(年額)
学位	博士（国際地域文化）
教育研究上の目的	本博士後期課程は、文化の多様性を理解し、グローバルな視点から国際社会が抱える多様かつ重要な課題の解決に向けた普遍的な研究を行い、高度な水準の研究を行うために必要な能力及びその基礎となる豊かな学識を有する創造性に富む人材を養成することを目的とする。
養成する人材像	本博士後期課程では、「国際地域文化」という観点から、高度の外国語運用能力を駆使し、琉球・アジアと（ハワイを含む）南北アメリカに特化した環太平洋地域の地域文化の研究を行い、地域社会や国際社会において活躍できる人材の育成を目指す。また、本学が立脚する琉球・沖縄の歴史や文化の研究を深化し、その成果を沖縄の地域創生に役立て、国内外の学生や研究者との共同研究を通じて国際感覚を磨くとともに、先端的な理論と知識を創造することのできる研究者を養成する。
設置場所	沖縄県名護市字為又 1220-1（名桜大学）
教育研究内容	琉球・アジアと（ハワイを含む）南北アメリカに特化した環太平洋地域の地域文化の研究を行い、同地域における文化的、社会的側面に関する理解と学識を深める。

【本学国際文化研究科（修士課程）在学生—平成 30 年度 1 年次及び研究生対象】

教 育 課 程	<p>共通科目（各必修 2 単位）：国際地域文化総合演習Ⅰ、国際地域文化総合演習Ⅱ 専門科目（各選択 2 単位）：琉球・沖縄文化特論、琉球文学特論、南島民俗文化特論、中国琉球関係史特論、アメリカ環境文学特論、中南米地域文化特論、東アジア地域文化特論、東南アジア地域文化特論、言語学特論、英語教育特論、現代沖縄教育特論、アジア太平洋国際関係特論</p> <p>研究指導科目（各必修 2 単位）：特別演習Ⅰ、特別演習Ⅱ、特別演習Ⅲ、特別演習Ⅳ、特別演習Ⅴ、特別演習Ⅵ</p>
修 学 環 境	<p>社会人を考慮し、平日の夜間や週末及び夏季休暇等にも授業・研究指導を行う。</p>
出 願 資 格	<p>①一般選抜対象者：修士課程もしくは博士前期課程修了生（修了見込含む） ②社会人選抜対象者：修士の学位もしくは専門職学位を有する者又はこれらと同等の学力があると認められた者で、本博士後期課程入学までに大学卒業後もしくは学士の学位取得後 4 年以上、又は大学院修士課程修了後もしくは修士の学位取得後 2 年以上の社会的経験を有する者とし、有職者に限らない。 ③外国人留学生選抜対象者：修士の学位若しくは専門職学位を有する者又はこれらと同等の学力があると認められた者で、日本国籍を有しない者。</p>

■以下の質問にお答えください。回答は、あてはまる番号に直接○を付けたり、記入したりしてください。

問1. 修士課程修了後の進路をどのように考えていますか。（どれか1つを選択）

- 1 進学 → 問2に進んでください。
- 2 就職 → 問7に回答してください。
- 3 その他（具体的には：_____） → 「就職後、一定期間経過後、進学する」等、進学の意向を含む場合、問2に進んでください。進学意向がまったくない場合、問7に回答してください。

問2. 名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）（以下、本学博士後期課程とする。）が開設した場合、あなたは、進学を希望しますか。（どれか1つを選択）

- 1 希望する → 以下すべての問いに回答してください。
- 2 検討したい → 以下すべての問いに回答してください。
- 3 希望しない → 問7に回答してください。

問3. あなたは、次のうち、どの地域に関心がありますか。（複数回答可）

- 1 沖縄・日本
- 2 アジア（沖縄・日本以外）
- 3 オセアニア
- 4 中南米
- 5 ハワイ含む北米
- 6 その他の地域（具体的には：_____）

問4. 本学博士後期課程への進学時期は、いつ頃を考えていますか。（どれか1つを選択）

- 1 平成31年度（開設年度）
- 2 平成32年度
- 3 平成33年度
- 4 平成34年度以降

問5. 本学博士後期課程への進学を希望する動機は何ですか。（複数選択可）

- 1 修士課程での教育研究を踏まえて、より高度な研究を行いたい
- 2 学位（博士）を取得したい
- 3 その他（具体的には：_____）

問6. 博士後期課程への進学に際して重視することは何ですか。（複数回答可）

- 1 入学者選抜の方法
- 2 夜間、土日等の授業開設
- 3 教育課程
- 4 研究指導体制
- 5 学費・奨学金
- 6 授業料減免制度
- 7 長期履修制度
- 8 その他（具体的には：_____）

問7. 本学博士後期課程開設にあたり、ご意見、ご要望等があればご自由にお書きください。

以上です。ご協力ありがとうございました。

名桜大学大学院国際文化研究科 国際地域文化専攻（博士後期課程）

に関するアンケート調査（再調査）

名桜大学大学院では、平成 31 年 4 月開設を目指して、国際文化研究科に「国際地域文化専攻（博士後期課程）」を設置することで平成 30 年 3 月に文部科学省に設置認可申請を行いました。

このアンケート調査は、皆様が修士課程 1 年次の平成 30 年 1 月に実施しておりますが、初回答時から約 5 カ月が経った現在、修了後の進路に変更がある学生がいるだろうことを考慮し、改めて実施することといたしました。

つきましては、皆様の進学意向をお伺いし、設置認可申請（補正）の資料として活用させていただきたいので、国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）の概要をご覧のうえ、アンケート調査にご協力をお願いいたします。

なお、当該専攻の設置計画は、現在、設置認可申請中につき、変更があり得ることを予めご理解ください。

平成 30 年 6 月

名桜大学大学院国際文化研究科

国際地域文化専攻（博士後期課程）設置準備委員会

【名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）概要（設置認可申請中）】

開 設 時 期	平成 31 年 4 月
研究科・専攻名	国際文化研究科 国際地域文化専攻（博士後期課程）
修 業 年 限	3 年 ※最長 6 年の長期履修制度あり
定 員	入学定員 2 名（収容定員 6 名）
学 費	入学金 125,000 円(地域内)・250,000 円(地域外) / 授業料 535,800 円（年額） ※本学大学院修士課程修了生が入学する際の入学金は「地域内」の半額とする。 【参考】沖縄県内の他の国公立大学大学院の類似する研究科（博士後期課程）の学費 琉球大学大学院人文社会科学研究科比較地域文化専攻(博士後期課程) 入学金 282,000 円/授業料 535,800 円(年額)
学 位	博士（国際地域文化）
教育研究上の目的	本博士後期課程は、文化の多様性を理解し、グローバルな視点から国際社会が抱える多様かつ重要な課題の解決に向けた普遍的な研究を行い、高度な水準の研究を行うために必要な能力及びその基礎となる豊かな学識を有する創造性に富む人材を養成することを目的とする。
養成する人材像	本博士後期課程では、「国際地域文化」という観点から、高度の外国語運用能力を駆使し、琉球・アジアと（ハワイを含む）南北アメリカに特化した環太平洋地域の地域文化の研究を行い、地域社会や国際社会において活躍できる人材の育成を目指す。また、本学が立脚する琉球・沖縄の歴史や文化の研究を深化し、その成果を沖縄の地域創生に役立て、国内外の学生や研究者との共同研究を通じて国際感覚を磨くとともに、先端的な理論と知識を創造することのできる研究者を養成する。
設 置 場 所	沖縄県名護市字為又 1220-1（名桜大学）

教育研究内容	琉球・アジアと（ハワイを含む）南北アメリカに特化した環太平洋地域の地域文化の研究を行い、同地域における文化的、社会的側面に関する理解と学識を深める。
教育課程	<p>共通科目（各必修 2 単位）：国際地域文化総合演習Ⅰ、国際地域文化総合演習Ⅱ</p> <p>専門科目（各選択 2 単位）：琉球・沖縄文化特論、琉球文学特論、南島民俗文化特論、中国琉球関係史特論、アメリカ環境文学特論、中南米地域文化特論、東アジア地域文化特論、東南アジア地域文化特論、言語学特論、英語教育特論、現代沖縄教育特論、アジア太平洋国際関係特論</p> <p>研究指導科目（各必修 2 単位）：特別演習Ⅰ、特別演習Ⅱ、特別演習Ⅲ、特別演習Ⅳ、特別演習Ⅴ、特別演習Ⅵ</p>
修学環境	社会人を考慮し、平日の夜間や週末及び夏季休暇等にも授業・研究指導を行う。
出願資格	<p>①一般選抜対象者：修士課程もしくは博士前期課程修了生（修了見込含む）</p> <p>②社会人選抜対象者：修士の学位もしくは専門職学位を有する者又はこれらと同等の学力があると認められた者で、本博士後期課程入学までに大学卒業後もしくは学士の学位取得後 4 年以上、又は大学院修士課程修了後もしくは修士の学位取得後 2 年以上の社会的経験を有する者とし、有職者に限らない。</p> <p>③外国人留学生選抜対象者：修士の学位若しくは専門職学位を有する者又はこれらと同等の学力があると認められた者で、日本国籍を有しない者。</p>

■以下の質問にお答えください。回答は、あてはまる番号に直接○を付けたり、記入したりしてください。

【確認事項】この調査は、あなたが修士課程1年次の平成30年1月に実施していますが、その際、回答しましたか。（どれか1つを選択）

- 1 回答した → 改めて問2以降に回答ください
- 2 回答していない → 問2に進んでください

問2. 修士課程修了後の進路をどのように考えていますか。（どれか1つを選択）

- 1 進学 → 問3に進んでください。
- 2 就職 → 問8に回答してください。
- 3 その他（具体的には：_____） → 「就職後、一定期間経過後、進学する」等、進学の意向を含む場合、問3に進んでください。進学意向がまったくない場合、問8に回答してください。

問3. 名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）（以下、本学博士後期課程とする。）が開設した場合、あなたは、進学を希望しますか。（どれか1つを選択）

- 1 希望する → 以下すべての問いに回答してください。
- 2 検討したい → 以下すべての問いに回答してください。
- 3 希望しない → 問8に回答してください。

問4. あなたは、次のうち、どの地域に関心がありますか。（複数回答可）

- 1 沖縄・日本 2 アジア（沖縄・日本以外） 3 オセアニア 4 中南米
- 5 ハワイ含む北米 6 その他の地域（具体的には：_____）

問5. 本学博士後期課程への進学時期は、いつ頃を考えていますか。（どれか1つを選択）

- 1 平成31年度（開設年度） 2 平成32年度 3 平成33年度 4 平成34年度以降

問6. 本学博士後期課程への進学を希望する動機は何ですか。（複数選択可）

- 1 修士課程での教育研究を踏まえて、より高度な研究を行いたい
- 2 学位（博士）を取得したい
- 3 その他（具体的には：_____）

問7. 博士後期課程への進学に際して重視することは何ですか。（複数回答可）

- 1 入学者選抜の方法 2 夜間、土日等の授業開設 3 教育課程 4 研究指導体制
- 5 学費・奨学金 6 授業料減免制度 7 長期履修制度
- 8 その他（具体的には：_____）

問8. 本学博士後期課程開設にあたり、ご意見、ご要望等があればご自由にお書きください。

以上です。ご協力ありがとうございました。

名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）

に関するアンケート調査

名桜大学大学院では、平成31年4月開設を目指して、国際文化研究科に「国際地域文化専攻（博士後期課程）」を設置することを構想しています。

つきましては、皆様の進学意向をお伺いし、設置構想の基礎資料として活用させていただきたいので、国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）の概要をご覧のうえ、アンケート調査にご協力をお願いいたします。

なお、当該専攻の設置計画は、現在構想中のため、準備の過程で変更になる可能性があることを予めご理解ください。

平成29年12月

名桜大学大学院国際文化研究科

国際地域文化専攻（博士後期課程）設置準備委員会

【名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）概要（構想中）】

開設時期	平成31年4月
研究科・専攻名	国際文化研究科 国際地域文化専攻（博士後期課程）
修業年限	3年 ※最長6年の長期履修制度あり
定員	入学定員2名（収容定員6名）
学費	<p>入学金 125,000円(地域内)・250,000円(地域外) / 授業料 535,800円(年額)</p> <p>※本学大学院修士課程修了生が入学する際の入学金は「地域内」の半額とする。</p> <p>【参考】沖縄県内の他の国公立大学大学院の類似する研究科（博士後期課程）の学費 琉球大学大学院人文社会科学研究科比較地域文化専攻(博士後期課程) 入学金282,000円/授業料535,800円(年額)</p>
学位	博士（国際地域文化）
教育研究上の目的	本博士後期課程は、文化の多様性を理解し、グローバルな視点から国際社会が抱える多様かつ重要な課題の解決に向けた普遍的な研究を行い、高度な水準の研究を行うために必要な能力及びその基礎となる豊かな学識を有する創造性に富む人材を養成することを目的とする。
養成する人材像	本博士後期課程では、「国際地域文化」という観点から、高度の外国語運用能力を駆使し、琉球・アジアと（ハワイを含む）南北アメリカに特化した環太平洋地域の地域文化の研究を行い、地域社会や国際社会において活躍できる人材の育成を目指す。また、本学が立脚する琉球・沖縄の歴史や文化の研究を深化し、その成果を沖縄の地域創生に役立て、国内外の学生や研究者との共同研究を通じて国際感覚を磨くとともに、先端的な理論と知識を創造することのできる研究者を養成する。
設置場所	沖縄県名護市字為又1220-1（名桜大学）
教育研究内容	琉球・アジアと（ハワイを含む）南北アメリカに特化した環太平洋地域の地域文化の研究を行い、同地域における文化的、社会的側面に関する理解と学識を深める。
修学環境	社会人を考慮し、平日の夜間や週末及び夏季休暇等にも授業・研究指導を行う。
出願資格	<p>①一般選抜対象者：修士課程もしくは博士前期課程修了生（修了見込含む）</p> <p>②社会人選抜対象者：修士の学位もしくは専門職学位を有する者又はこれらと同等の学力があると認められた者で、本博士後期課程入学までに大学卒業後もしくは学士の学位取得後4年以上、又は大学院修士課程修了後もしくは修士の学位取得後2年以上の社会的経験を有する者とし、有職者に限らない。</p> <p>③外国人留学生選抜対象者：修士の学位若しくは専門職学位を有する者又はこれらと同等の学力があると認められた者で、日本国籍を有しない者。</p>

■以下の質問にお答えください。回答は、あてはまる番号に直接○を付けたり、記入したりしてください。

問 1. あなたは、博士後期課程へ進学する意向はありますか（どれか1つを選択）

- 1 ある → 問 2 に進んでください。
- 2 ない → 問 7、問 8 に回答してください。
- 3 わからない → 問 6、問 7、問 8 に回答してください。

問 2. 名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）（以下、本学博士後期課程とする。）が開設した場合、あなたは、進学を希望しますか。（どれか1つを選択）

- 1 希望する → 問 3～問 8 すべての設問に回答してください。
- 2 検討したい → 問 6、問 7、問 8 に回答してください。
- 3 希望しない → 問 7、問 8 に回答してください。

問 3. あなたは、次のうち、どの地域に関心がありますか。（複数回答可）

- 1 沖縄・日本 2 アジア（沖縄・日本以外） 3 オセアニア 4 中南米
- 5 ハワイ含む北米 6 その他の地域（具体的には：_____）

問 4. 本学博士後期課程への進学時期は、いつ頃を考えていますか。（どれか1つを選択）

- 1 平成 31 年度（開設年度） 2 平成 32 年度 3 平成 33 年度 4 平成 34 年度以降

問 5. 本学博士後期課程への進学を希望する動機は何ですか。（複数選択可）

- 1 修士課程での教育研究を踏まえて、より高度な研究を行いたい
- 2 学位（博士）を取得したい
- 3 キャリアアップしたい
- 4 その他（具体的には：_____）

問 6. 博士後期課程への進学に際して重視することは何ですか。（複数回答可）

- 1 入学者選抜の方法 2 夜間、土日等の授業開設 3 教育課程 4 研究指導体制
- 5 学費・奨学金 6 授業料減免制度 7 長期履修制度
- 8 その他（具体的には：_____）

問 7. あなたの修士号取得経歴を伺います。（該当する1つを選択）

- 1 在学中 2 取得後 1~3 年経過 3 取得後 4~6 年経過 4 取得後 7~9 年経過
- 5 取得後 10 年以上経過

問 8. 本学博士後期課程開設にあたり、ご意見、ご要望等があればご自由にお書きください。

以上です。ご協力ありがとうございました。

名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)の設置に関するアンケート調査(再調査)

集計結果1(本学修士課程在学学生1年次、2年次、研究生対象)

■調査の概要

調査実施期間:平成30年6月8日(金)～6月15日(金)

場所:大学内

対象:名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻(修士課程)の在学学生16名(1年次、2年次、研究生)

方法:自記式無記名質問紙による量的調査

回収:16人(100%) 内訳:修士学生 1年次5人、2年次10人、研究生1人

分析対象:16人

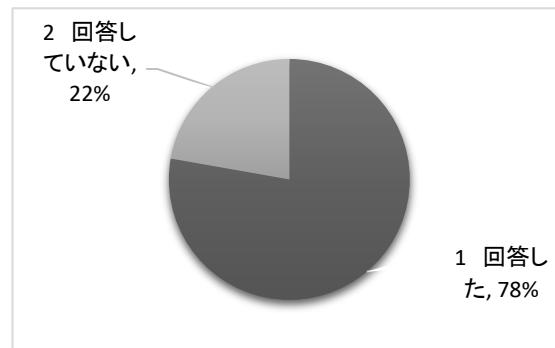
「2年次のみ」の設問

【確認事項】この調査は、あなたが修士課程1年次の平成30年1月に実施していますが、その際、回答しましたか。(どれか一つを選択)

※「1 回答した」を回答した方は問2以降に回答ください。

※「2 回答していない」を回答した方は問2に進んでください。

1 回答した	8	80%
2 回答していない	2	20%
合計	10	100%



この設問以降、1年次、2年次、研究生共通の設問

問1. 修士課程修了後の進路をどのように考えていますか。(どれか一つを選択)

※「1 進学」を回答した方は問2に進んでください。

※「2 就職」を回答した方は問7に回答してください。

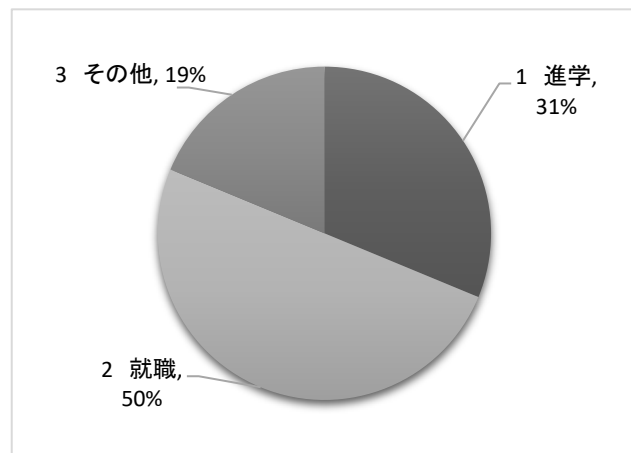
※「3 その他」を回答した方で、進学の意向を含む場合は問2、進学意向がまったくない場合は問7に回答してください。

1 進学	5	31%
2 就職	8	50%
3 その他	3	19%
合計	16	100%

その他の記述

- ・進学と就職同時に行うことを希望
- ・就職後、一定期間経過後、進学する
- ・復職後、一定期間経過後、検討したい

学年内訳	1年	2年	計
1 進学	3	2	5
2 就職	2	6	8
3 その他	1	2	3
合計	6	10	16



問2.名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)(以下、本学博士後期課程とする。)が開設した場合、あなたは、進学を希望しますか。(どれか1つを選択)

※「1 希望する」を回答した方は、以下すべての問いに回答してください。

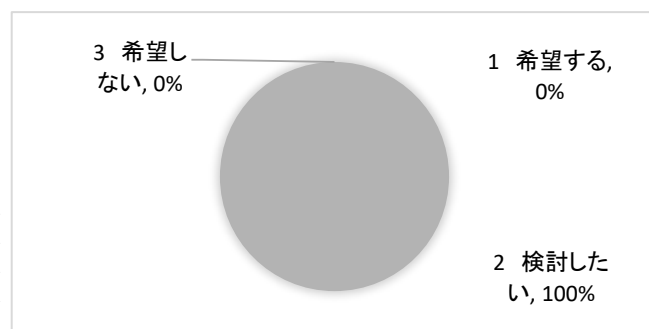
※「2 検討したい」を回答した方は、以下すべての問いに回答してください。

※「3 希望しない」を回答した方は問7に回答してください。

n=8 (問1「1」、「3」)

1 希望する	0	0%
2 検討したい	8	100%
3 希望しない	0	0%
合計	8	100%

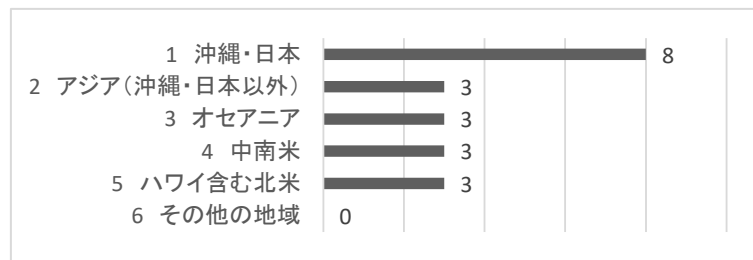
学年内訳	1年	2年	計
1 希望する	0	0	0
2 検討したい	4	4	8
3 希望しない	0	0	0
合計	4	4	8



問3. あなたは、次のうち、どの地域に関心がありますか。(複数回答可)

n=8 (問2 「1」「2」)

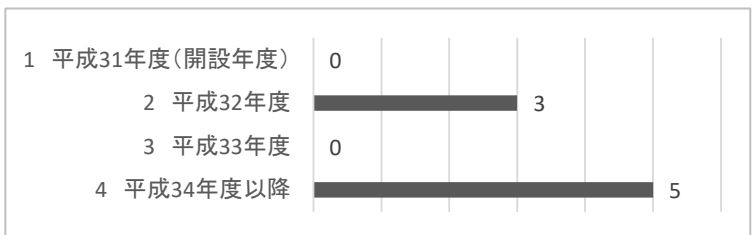
1 沖縄・日本	8
2 アジア(沖縄・日本以外)	3
3 オセアニア	3
4 中南米	3
5 ハワイ含む北米	3
6 その他の地域	0



問4. 本学博士後期課程への進学時期は、いつ頃を考えていますか。(どれか1つを選択)

n=8 (問2 「1」「2」)

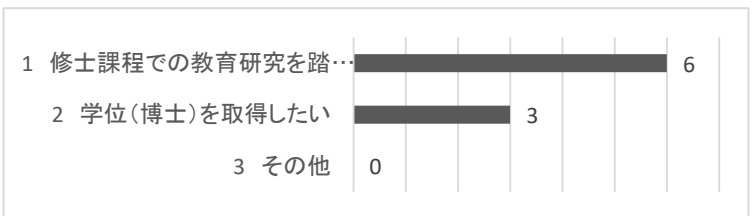
1 平成31年度(開設年度)	0	0%
2 平成32年度	3	38%
3 平成33年度	0	0%
4 平成34年度以降	5	63%
合計	8	100%



問5. 本学博士後期課程への進学を希望する動機は何ですか。(複数選択可)

n=8 (問2 「1」「2」)

1 修士課程での教育研究を踏まえ、より高度な研究を行いたい	6
2 学位(博士)を取得したい	3
3 その他	0

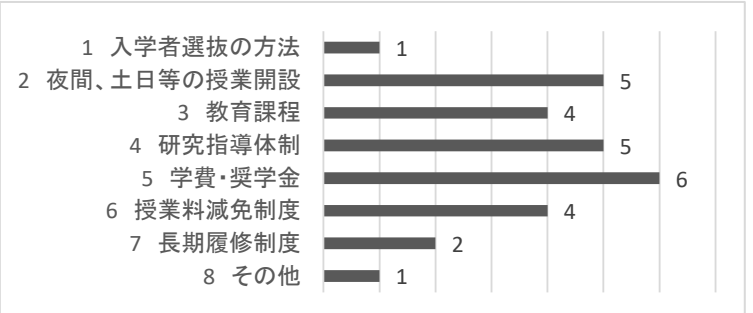


問6. 博士後期課程への進学に際して重視することは何ですか。(複数回答可)

n=8 (問2 「2」)

1 入学者選抜の方法	1
2 夜間、土日等の授業開設	5
3 教育課程	4
4 研究指導体制	5
5 学費・奨学金	6
6 授業料減免制度	4
7 長期履修制度	2
8 その他	1

その他: 指導教員のご経験や研究フィールドなど



問7. 本学博士後期課程開設にあたり、ご意見、ご要望等があればご自由にお書きください。

- ・名桜大は可能性を秘めた大学だと感じています。様々な課程で博士をとれると良いと思います。
- ・博士の開設は学生にとっていいことだと思います。こうすることで学校の設備とか、ソフト面でもレベルが上がると思っています。
- ・まず、修士課程を見直してほしいです。何故ならば、専門性が弱いと思います。
- ・もし開設することができたら、修士課程よりもっと国際的な視野を含む授業が増えてほしいです。
- ・博士課程の開設、楽しみにしております。
- ・名桜出身の学生は、入学金、授業料など特別に安くなれば良いと思います。
- ・博士課程で学生たちにもっと国際視野が広めるため、講座とか、授業と関係のある海外研修が増えれば良いと思います。
- ・社会人選抜制度があるのなら、長期履修制度も併設すべきです。現時点での修士過程について看護研究科に長期履修制度があるのに国際文化研究科にはありません。就業しながらでは、どうしても時間がたりないです。国際文化研究科でも長期履修制度があればと思うことがしばしばです。

名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)の設置に関するアンケート調査

集計結果2(本学修士課程修了生対象)

■調査の概要

調査実施期間:平成30年1月6日(土)～1月31日(水)

場所:郵送調査

対象:名桜大学大学院国際文化研究科国際文化システム専攻(修士課程)の修了生133名の内40名
(修了後の住所が明確な修了生を選定した)

方法:自記式無記名質問紙による量的調査

回収:20人(50%)

分析対象:20人

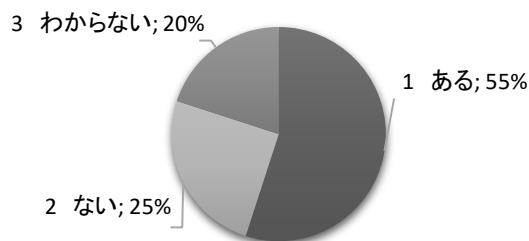
問1. あなたは、博士後期課程へ進学する意向はありますか。(どれか一つを選択)

※「1 ある」を回答した方は問2へ進んでください。

※「2 ない」を回答した方は問7、問8へ進んでください。

※「3 わからない」を回答した方は問6、問7、問8へ進んでください。

1 ある	11	55%
2 ない	5	25%
3 わからない	4	20%
合計	20	100%



問2.名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻(博士後期課程)(以下、本学博士後期課程とする。)が開設した場合、あなたは、進学を希望しますか。(どれか一つを選択)

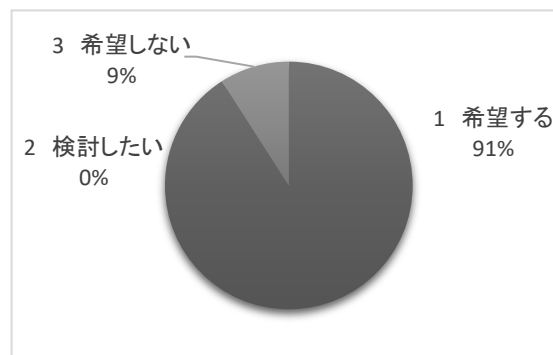
※「1 希望する」を回答した方は問3～問8すべての設問に回答してください。

※「2 検討したい」を回答した方は問6、問7、問8に回答してください。

※「3 希望しない」を回答した方は問7、問8に回答してください。

n=11 (問1「1」)

1 希望する	10	91%
2 検討したい	0	0%
3 希望しない	1	9%
合計	11	100%



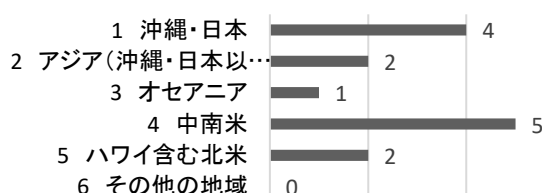
「1希望する」の修士号取得経歴

在学中	0
取得後1～3年経過	2
取得後4～6年経過	3
取得後7～9年経過	1
取得後10年以上経過	4
合計	10

問3. あなたは、次のうち、どの地域に関心がありますか。(複数回答可)

n=10 (問2「1」)

1 沖縄・日本	4	40%
2 アジア(沖縄・日本以外)	2	20%
3 オセアニア	1	10%
4 中南米	5	50%
5 ハワイ含む北米	2	20%
6 その他の地域	0	0%



問4. 本学博士後期課程への進学時期は、いつ頃を考えていますか。(どれか1つを選択)

n=10 (問2「1」)

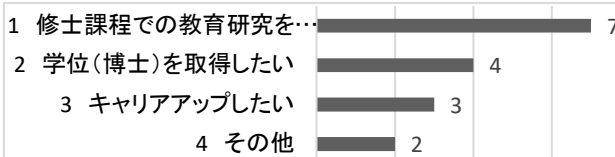
1 平成31年度(開設年度)	4	40%
2 平成32年度	3	30%
3 平成33年度	1	10%
4 平成34年度以降	2	20%
合計	10	100%



問5. 本学博士後期課程への進学を希望する動機は何ですか。(複数選択可)

n=10 (問2「1」)

1 修士課程での教育研究を踏まえ、より高度な研究を行いたい	7	70%
2 学位(博士)を取得したい	4	40%
3 キャリアアップしたい	3	30%
4 その他	2	20%



「3その他」の記述:

- ・グローバルな視点もよいが「日本(人)の本質」を学びたい。
- ・現在会社の顧問をしているので実学となる。

問6. 博士後期課程への進学に際して重視することは何ですか。(複数回答可)

n=10 (問2「1」+「2」)

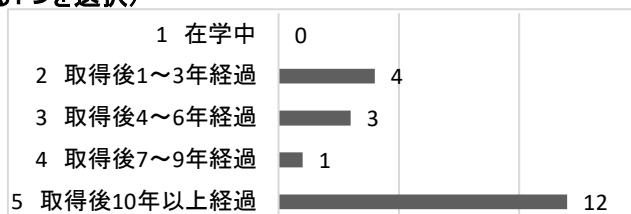
1 入学者選抜の方法	5	50%
2 夜間、土日等の授業開設	7	70%
3 教育課程	5	50%
4 研究指導体制	8	80%
5 学費・奨学金	4	40%
6 授業料減免制度	4	40%
7 長期履修制度	2	20%
8 その他	1	10%



「3その他」の記述: 年齢、社会的な視点、体力には自信があ

問7. あなたはの修士号取得経歴を伺います。(該当する1つを選択)

1 在学中	0	0%
2 取得後1~3年経過	4	20%
3 取得後4~6年経過	3	15%
4 取得後7~9年経過	1	5%
5 取得後10年以上経過	12	60%
合計	20	100%



問8. 本学博士後期課程開設にあたり、ご意見、ご要望等があればご自由にお書きください。

- ・還暦で修士課程に入学したので、古稀での博士後期課程に挑戦することは自分の甲斐性だと思っている。体力の経年劣化は否めないものの66歳の前期高齢者として負けじ魂に点火したが如く、今現在は健康寿命90歳以上を目標に見据え週二回のトレーニング継続中である。本課程設置構想に謳われている目的とは多少ニュアンスの相違はあるかもしれないが、超高齢化社会に突入した現代社会に前期高齢者の自分が乾坤一擲を投じたいものである。
- ・現在既にマレーシアにて博士課程に進学中。名桜大学の博士課程開学には賛成です。
- ・今後の沖縄の政治、経済の視点から大変意義のあることである。アジア、他の国からの観光客の増加、近隣諸国との相互理解など高度な知識が要求されると考える。
- ・博士課程進学について、手続き中であることと、研究分野が違うため新設されるプログラムは進学しません。
- ・博士課程の設置、すばらしいことですね。
- ・大学院在籍中に有審査の学術論文を数本発表できる様な研究者の育成につとめていただきたい。また、その様な研究者の育成に資する指導者の確保も課題と考えます。
- ・論文作成に際し、フィールドワークが必要な場合、奨学金等の金銭的援助や制度を充実して頂けたらと思います。(学会参加や県外の勉強会参加に関しても同様に)また、可能な限り、授業の時間に関しては先生方に柔軟に対応して頂けたら助かります。ひとつ疑問なのは、入学金が地域内・外で倍弱の違いがありますが、地域外からくる希望者にとっては特に金銭面を重視する者にとっては少々ハードルに感じます。そもそも何故、地域内・外で金額が異なるのかわかりません。
- ・名桜大学大学院博士課程が今後、大きく沖縄の発展の為に貢献しますことを望むものです。
- ・社会人の博士後期課程専門的に職場との時間調整ができる態勢を希望する。

近隣競合校の志願状況

【博士後期課程】

大学名	研究科・専攻名	入学定員	H29年度志願倍率	人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的
琉球大学 大学院	人文社会科学 研究科 比較地域文化 専攻	4	2.3	博士後期課程は、沖縄の持つ地理的・歴史的・文化的諸条件を生かした創造的な学術研究と教育を目指し、グローバルな視点から現代社会や地域の課題に柔軟に対応できる先端的な学識と技能を持つ高度専門職業人と研究者の養成を目的とする。
沖縄県立 芸術大学 大学院	芸術文化学研究科 芸術文化学専攻	3	1.7	芸術文化学研究科は、実技との結びつきを重視した芸術文化に関する高度な理論と応用の教授研究により、芸術文化についての豊かな識見及び自立して研究活動を行うに必要な高度の能力を有する研究者を養成し、もって芸術文化の発展に寄与することを目的とする。

平成29年度学校基本調査 ー専攻分野別大学院学生の構成ー

(3)大学院博士課程

(単位:%)

区分	専攻分野別学生の構成比											
	計	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	医・歯学	薬学	家政	教育	芸術	その他
平成19年度	100.0	10.3	10.0	7.7	18.6	5.7	26.3	1.9	0.5	2.6	1.0	15.3
24	100.0	8.7	9.0	7.0	18.5	5.1	27.5	2.2	0.4	3.1	0.9	17.7
25	100.0	8.5	8.8	7.0	18.3	5.0	27.7	2.5	0.3	3.0	0.9	18.0
26	100.0	8.3	8.7	7.1	18.0	4.9	27.7	2.8	0.3	3.1	0.9	18.0
27	100.0	8.1	8.5	7.0	17.9	4.9	27.8	3.2	0.3	3.1	1.0	18.4
28	100.0	7.9	8.3	6.8	17.6	4.8	28.1	3.3	0.3	3.1	1.0	18.9
29	100.0	7.7	8.1	6.6	17.2	4.8	28.6	3.2	0.3	3.1	0.9	19.6

出典:平成29年度学校基本調査(確定値) II 調査結果の概要